
いつか見た青い空

影武者アール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつか見た青い空

【Nコード】

N1368C

【作者名】

影武者アール

【あらすじ】

転校してクラスに馴染めずにいた。些細な事がキツカケでイジメ行為をされるようになる。誰も信用できない。私だけが我慢すればきっと大丈夫。そんな私にアナタは手を差し伸べてくれた。アナタと見た青い空を忘れない。きつと…。

プロローグ（前書き）

いじめに対するお話なので気分を害することもあるかも知れませんが、それでも、あなたの心に響いてくれたら幸いです。

ブローグ

私はイジメられた過去がある。時折、ニュースでイジメによる自殺を耳にすると悲しくなる。

私もあなた達と同じ空間だったから……。でも負けなかった。正確には、いつも「死にたい」って思ってた。彼等にされたイジメ行為は忘れようと思っても忘れられない。深く私の心に刻まれたからだ。今、ここに存在してるのは友人がいたから……。きっと彼女がいなかったら、間違いなく私は死んでいただろう。

第一話 希望を胸に

私、田辺明日香（13歳）。

緑がキラキラと雨の雫で光を放っている。梅雨に入っただばかりの頃、私は桜川中学に転校してきた。

私のクラスは、今、現在、人数が多い。男子20人、女子15人のクラスだった。

クラス担任は小柄なかわいい感じの綾瀬薫（27歳）独身の女性の先生でした。

1年2組の教室にはいると、真面目そうな人達でいっぱい。

彼等を見た瞬間、

「仲良くできるかも？」そう直感した私。

顔をニンマリと微笑んで元氣よく挨拶した。

「田辺明日香と言います。東京から転校してきました。まだ、何も解らないことではいっばいなので皆さん仲良くして下さい。宜しくお願いします」

私はそういうとペコリと頭を下げた。クラスから視線を感じた。興味津々なんだろう？中途半端な時期の転校だから、注目をあびるのは当然の事かも知れない。

私は臆することなく席に着いた。

私の席は窓際で前から3列目の場所。隣の席セキグチノボルの関口龍は、よく喋るし、気があいそうなタイプだった。

「田辺ちゃん！宜しくな」

そついうと軽くwinkして見せた。

「宜しく」

私はにつこりと笑いながら言った。

何事もなく1カ月が過ぎようとしていた。私もなんとかクラスに慣れようと必死だった。それもこれも関口がいたから早く馴染めたのかも知れない。頼れる男子って思っていた。でもいつからか「好き」ってほのかな感情が芽生え始めていた。

そんなときクラスで人気の高い白鳥真奈美が声をかけてきた。

「田辺さん。ちょっといい？」

腕をつままれて廊下に連れて行かれる。白鳥真奈美は廊下の隅で小声で私に向かって聞いた。

「関口のこと！どう、おもってんの！？好きなの？」

顔を紅潮させてムキになって聞いてくる。そんな彼女を見て直感した。白鳥真奈美は関口のこと好きなんだって！

私は意地悪そうにこたえた。

「嫌いじゃないよ！」

それを聞いた彼女の目は鋭く私を睨みつける。

「そう……」

そういうと彼女はグループの輪の中に消えていった。

彼女の後ろ姿を見て後悔した。もう少し優しく言えば良かったって。

一週間後。

私のげた箱に一枚の手紙が入っていた。宛先も差出人も書かれていない。私は気になって少し封を開けてみる。

中を見るとこんなことが書かれていた。（関口龍君へ

龍君のことが好きです。龍君と一緒にお話するだけで幸せ。サッカーをしている龍君がいちばん好き。龍君の彼女になりたい。手紙でしか本音が言えないけど、お願い私を龍君の彼女にして下さい。）

そう書いてあった。名前は小さく隅っこに書いてあった。白鳥真奈美と…。
見てはいけない内容だった。だってこれは関口へのラブレターだったからだ。
私は誰かに見られていないかビクビクしながら手紙を封して右隣の関口のげた箱にいれた。

何事もなく数日間が過ぎた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1368c/>

いつか見た青い空

2010年10月12日05時52分発行